

5 令和6年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校内評価を実施しましたので報告します。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒が自ら学び 続け、自己実現を 可能にする確かな 学力と探究力を育 成する。 ②幅広い教養とグ ローバルな視点を 基盤とした課題発 見・解決能力や、 自分が生きる未来 を考える力を育成 する。	①全ての教科で 探究的な学びの 機会を設定し、 生徒が探究の手 順を繰り返し経 験できるように する。	①(1)問いの設定 (2)見通し(3)対 話協働(4)振り返 り これら一連の 学習経験を単元 等のまとまりで 行うとともに、 事前に提示した 評価基準で教員 からフィードバ ックを行う。	①各教科の実践状 況 ・行った回数 ・問い・見通しの 内容 ・評価基準の事前 提示 ・対話、振り返り の様子 ・フィードバック の様子	①各教科でルーブリックを作成 し、研究授業に臨んだ。教員が 個々に探究的な取組を意識する ようになった。	①各教科で、どのよう に探究的な取組みを定 着させていくのか。具 体的な取組を進めてい く。	①探究的な学びにおける （3）対話協働について人 間関係の配慮を含め、他者 の視点（役割取得）を認め ながら自らの価値理解や自 覚状況について再度問い直 すというプロセスを大切に してもらいたい。 ①探究力を育成するための ルーブリック作成や多様な ニーズに応じた学習（授 業）のあり方を検討を継続 してもらいたい。 ①探究活動が卒業後も続く という意味では高校の授業 における探究の意味合いを よく考えて取り組ませても らいたい。	①「探究力」の育成 を目指し、各教科で 身につけたい力につ いて協議を重ね、ル ーブリックを作成す ることができた。 職員の探究的な取組 への意識がより向上 した。	①各教科の具体的 な実践を職員間で 共有し、探究的な 取組をより定着さ せる手立ての検討 を継続する。
2	生徒指導 ・支援	①全ての教育活動 において、生徒一 人ひとりの意思決 定を尊重し、自分 も他者も等しく大 切にできる力や人 をつなげる場を作 り出す力を育成す る。 ②組織的な生徒支 援を充実させ、生 徒一人ひとりが安 心して挑戦できる 環境づくりをする。	①学校行事や部 活動・委員会活 動で、他者尊重 や対話について 生徒が意識して 行うよう働きか ける。 ②全職員で生徒 支援に係る理解 を深め、組織的 な支援体制のあ り方を検討す る。	①担任や顧問等 から声がけをし、活動のまと まりで振り返り を行い、生徒自 身の状況を認識 させる。 ②職員研修を行 うとともに、生 徒支援体制をつ くり始動する。	①実践状況 声がけの状況 振り返りの記載 内容 ②研修の実施状況 支援体制の様子	①学校行事、委員会活動や部活 動における他者尊重や対話の必 要性について、タイミングよく 声掛けをすることによりこれら の意識を高めさせることができ た。 ②サポートドックのふり返り で、一見課題がなさそうに見え る生徒でも注視・支援する必要 があることを共通認識として深 めることができた。 多様な学習ニーズに応じた授業 のあり方について成績報告から 進級・卒業判定会議までの流れ を作成し、実施することができ た。	①場面によっては声を 掛ける量が多すぎてし まうこともあるので、 生徒自身の自立と自律 を促すためにも思考を 働かすことができるよ うな声の掛け方が必要 である。 ②特定の課題に関わっ て、書籍の紹介、職員 回覧はできたが、専門 家を呼んでの研修を実 施できなかった。職員 の困り感をどこまです くい上げられるかが課 題である。 対面や添削に係る登校 日数など県の指標に基 づいた本校の指標を明 文化する。	①生徒指導支援では必要に 応じて保護者を含め迅速・ 継続的に粘り強く関わって もらいたい。 ②勉強をしたくても学校へ 来れない生徒への取組はと てもよい。継続してもらい たい。 様々な課題を抱えている生 徒もいると思われるので、 可能な範囲で地域との連携 をとることも検討してもら いたい。	①担任や顧問等から 生徒それぞれの状況 にあった声掛けを行 い、生徒の抱えている 問題の把握に努め ることができた。 ②サポートドックの 振り返りを通して、 様々な課題が見つか り、生徒の状況にあ った支援に繋げるこ とができた。 SC・SSW と連携し、 様々な課題に対する 実践的な対応につい て教員間で共有し た。	①生徒の個性を尊 重し、生徒それぞ れに適した声掛け をする必要があ る。 ②サポートドック 等を活用し、支援 の必要な生徒に迅 速に対応できる体 制をより強化する ために、教員間で の情報共有を組織 的に進める。

	視点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3 月 14 日実施)	総合評価 (3 月 31 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒が自身の生き方や社会のこれからを考える契機となる学びの機会を設定し、主体的に目標・見通しをたてることを支援する。 ②生徒が自ら選んだ進路の実現に向けて、あきらめずに自己効力感をもって取り組めるように連携して支援する。	②生徒が自分の考えを整理し、進路について自ら意思決定できるように支援をする。また、保護者が生徒の意思決定を見守り、サポートできるように情報提供を行う。	②定期及び随時の個別面談を通じて、生徒の意思決定の支援をする。また、保護者向け進路説明会を行い、サポートに必要な情報提供を行う。	②個別面談の状況 ・回数 ・意思決定の状況 保護者向け進路説明会 ・参加人数 ・情報提供した内容	①1年生に向けて社会人講話を実施し、主体的な進路選択を促した。 ②3年生にむけて「学習の進め方や進路決定などについて、きめ細かなガイダンスを受けたり、相談の機会があったか」というアンケートでは、92.5%の生徒が「はい」と返答していた。 ②3年生への進路面談は3回実施された。3年保護者向け進路説明会の参加は144名。内容は、R5年度卒業生の進路状況、近年の入試動向、各教科での取組、保護者の支援の在り方についてであった。1,2年生の保護者説明会の参加者は280名。近年の入試概況や保護者の支援の在り方についてであった。	①生徒の主体性を育成するための効果的な指導の在り方について、生徒や保護者の声も参考にしつつ、今後も検討を重ねる。 ②保護者説明会の適切な時期を検討し、来年度以降も実施していく。	①進路指導支援では社会的・職業的自立を踏まえたキャリア形成を培ってみたい。 ②進路指導について、1年生の早い時期から進路説明会があると、生徒も保護者も助かるのではないかと。保護者向けの進路説明会だけでなく、緑高のOBの大学関係者などを招くことができれば、より深い情報を聞けるのではないかと。	②各学年の状況にあった進路指導を行い、進路実現に向けて、計画的に実施することができた。 ②3年生においては、進路面談を定期的に行い、生徒それぞれの進路に向けて取り組むことができた。各学年で、保護者向け進路説明会を実施し、保護者との情報共有を徹底することができた。	②生徒や保護者の意見を参考に効果的な進路指導となるように検討を継続する。 個別面談等を通して、生徒の意思決定を確実にサポートできる体制を強化する。
4	地域等との協働	①地域や家庭と協働し、信頼される学校づくりを推進する。 ②外部機関や後援組織との連携を深め、学校教育の支援体制を充実させ、社会に貢献できる人づくりを目指す。	①本校の教育活動の様子を発信し、地域や保護者の方の理解を得る。また、行事への参加等による連携を深める。	①本校ホームページで情報発信を行う。また、地域の行事に希望生徒や部活動単位で参加し、社会とのつながりを考える機会とする。	①情報発信 ・わかりやすさ ・頻度 地域行事への参加 ・参加人数 ・地域の方のご意見 ・生徒の振り返り内容	①ホームページの各リンクの見やすさや探したいページを見つけやすいようレイアウトを工夫した。また、保護者へ伝えたい事項については、プリント等の配付と同日にマチコミメールの配信も行った。 地域の夏祭りに続き、地域の小学校の総合的な学習の時間の企画に準備・運営員として4名の生徒が参加した。	①ホームページについて、更新が滞っているページについては、定期的に声をかけ、更新を促す必要がある。 地域行事への参加については、部活動の大会や定期試験前等でタイミングが悪く興味はあっても参加できない生徒が多かったため、本番直前の準備からではなく、日ごろから連携できるような関係づくりをしていく。	①地域等との協働ではホームページ更新において特定の部活動だけでなく、すべての活動において情報発信をしてもらいたい。 ①夏の地域行事や元気づくりコンサート等に高校生が参加することで、中学生にとって励みになり、また目標にもなっている。引き続きできる範囲で地域との協働に取り組んでもらいたい。	①ホームページの改善を行い、必要な情報に素早くたどりつけることができるように検討を行った。 各種お知らせや近況報告等のすばやい情報発信に繋げることができた。	①部活動の情報提供がすべての部活動で定期的に行える体制を構築する。 中学生や保護者の方が必要としている情報を提供できるようにホームページの改善を継続する。 ①地域との交流する機会を増やし、多くの生徒が交流できるように企画・検討を行う。

	視点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	①学校目標の達成に向けて、学校運営に全職員が主体的に参画するとともに、安心安全で信頼される学校づくりに引き続き注力する。 ②職員一人ひとりのWell-Beingを大切にした働き方の実現を目指す。	①スクール・ポリシー及びグランドデザインによる学校目標の共通理解を進める。 ②安心して働きやすい環境整備について、全職員で検討する。	①これからの4年間に対応したスクール・ポリシー及びグランドデザインを策定し、職員の共通理解を進め、生徒・保護者にも周知する。 ②職員室等の執務環境や、安心して業務を行うために必要なことを、意見交換会等で検討する。	①スクール・ポリシー、グランドデザインの策定状況 ・職員の共通理解の進捗 ・生徒・保護者への周知 ②意見交換会の開催状況 ・意見の数と内容 ・改善案としての整理	①職員会議で職員に周知した。生徒・保護者に向けての周知は、各クラスでの掲示による周知を行った。外部に向けては学校ホームページ上に掲載し、周知した。 ②オフィス改善にかかる意見を集め、対象となる部屋のレイアウトを整理した。	①グランドデザインの実現に向けた授業改善が進むこと。 スクールポリシーに対して、生徒の理解が深まること。 ②オフィス改善事業に伴い、教職員の執務環境の整備を進めていく必要がある。	①全般真摯に取り組まれている様子がうかがえた。達成状況を受けた課題はできるだけ細かく把握し、次年度のより具体的な改善方策につなげてもらいたい。	①生徒・保護者にスクールポリシー、グランドデザインを周知した。ホームページに様々な情報を掲載し、本校についての理解を深めることができた。 ②オフィス改善に向けて、一つひとつ着実に進めることができた。	①ホームページ等の手段を利用し、より着実にスクール・ポリシー、グランドデザインによる学校目標の共通理解を進める。 ②オフィス改善を進め、環境整備を進め、働きやすい職場づくりを進める。